

# 2020 年度 東京医科大学

## 【 講 評 】

大問構成は例年通り 5 題。大問 1 がアクセント、大問 2 が文法・語法、大問 3 が語句整序、大問 4 が空所補充と語義類推からなる長文読解、大問 5 が内容一致を中心とする長文読解であった。大問 2 は文法規則の理解を問うオーソドックスな出題ではなく、単語・熟語の知識を問う出題であった。大問 2 も大問 3 と同様、熟語や定型表現の知識で解けるものが多かった。基礎的な単語・熟語の知識を軽視せず、確実に暗記・理解しておくことが重要である。大問 4・大問 5 は、正確に読解することに加えて、効率よく解答する必要がある、過去の出題傾向を踏まえた対策が重要である。

## 【 解 答 ・ 解 説 】

1

1. ① 第 1 音節 (他の選択肢は第 2 音節)
2. ④ 第 1 音節 (他の選択肢は第 2 音節)
3. ④ 第 1 音節 (他の選択肢は第 2 音節)
4. ⑤ 第 1 音節 (他の選択肢は第 2 音節)
5. ② 第 1 音節 (他の選択肢は第 2 音節)

2

a. ②

主語が a hurricane、目的語が Florida であることを考慮すると、意味的に approaching「近づいている」が正解となる。文法的には proceed と progress が共に他動詞用法を持たないが、残りの選択肢は全て他動詞用法を持つため、結局は意味で解くことになる。

b. ⑤

of the law に修飾されていることを考慮すると、意味的に review「見直し」が正解となる。他の選択肢は resign「辞任する」を除いて全て名詞用法を持つため、意味で解く。

c. ⑤

if 節が「バランスの良い食事を取らなかったのなら」の意であるから、be liable to V「Vしがちである」が正解となる。

d. ②

by far ~ 「断然～」。

e. ①

cautiously optimistic 「慎重に楽観的である (=期待はあるが油断はできない)」。新聞などで用いられる表現。これを知る受験生は少ないと思われる。

3

a. ⑥・① (he was far from being finished)

far from ~ 「～でない」。being finished で受動態になっているが、これは I'm done. / I'm finished. 「もう終わった」など慣用的に用いられる表現である。

b. ③・⑥ (should make every effort to conform to)

助動詞 should の直後は動詞の原形であり、make で確定。make effort to V の形を作り、every が修飾する名詞は effort のみであることに気づく。

c. ⑤・② (goes without saying that if you)

It goes without saying that ~ 「～ということは言うまでもない」。

d. ③・⑥ (considering firing left much to be desired)

his work ethic を主語に取る動詞は left のみ (desire は通例人を主語に取る)。また、目的語に人名 Scott を取る動詞は fire 「解雇する」のみ。よって、最初の二つは considering firing となる。The manager was とあるので desired を入れると受動態になり、意味が通らないので不適。

e. ②・④ (very keen on going out to)

be keen on Ving 「V するのに熱心である」。very が修飾できるのは形容詞 keen のみ。

4

A

《方針》 選択肢を「主語の単複」「時制」で分類してから空所の前後を確認する

21. ㊦

第 1 段落 2 行目 Its deadline? に注目すれば「急ぐ、時間がない」といったニュアンスの語句が入ることが予想できる。is up against the clock 「時間の問題に直面している」が正解となる。

22. ⑧

時制の一致より、動詞の過去形を用いている選択肢が正解となる。

23. ⑨

空所の後ろに「筆者が東京で過ごす際に何度も困ったこと」が述べられている。前の段落でも「困ったこと」が述べられているため、並列の論理関係を表す **also** を含む⑨が正解。

24. ⑤

前の段落まで東京の話をしており、空所の後ろで **Every country** や **United States** に言及していることを踏まえると、「日本に限った話ではない」としている⑤が正解。

25. ④

空所の後ろで **Access-makers** が既存の法律や政策に基づいて新しいものを作ると述べられているため、「ゼロから始めるわけではない」という④が正解。

26. ⑯

前の段落では **this kind of communication** が肯定的に述べられているが、空所を含む段落は **unfortunately** で始まるため、否定的な記述になる⑯が正解。**at stake** 「問題となって」「危機に瀕して」。⑦は似ているが、動詞が **are** なので不適。

27. ⑦

空所の後ろに **those people** が危険な目に遭っているという記述があるので、⑦が正解。

28. ⑫

主語は **failure** なので単数。その **failure** の改善策として、「アクセスの構築の速度を落とすか、コミュニケーションの速度を上げる」という時間に関するものが挙げられている。よって **is caused by haste** 「急いだことによって引き起こされる」が正解。

29. ⑩

空所の後ろにある **which** の先行詞が **access** だと文意が成立しないので、先行詞は空所に含まれる名詞と考える。**many other reasons** を先行詞とすると文意が成立するので⑩が正解。

30. ①

次の段落で **crowdsourcing** の活用について述べられているので、①が正解。

31. ②

空所の後ろで「東京オリンピックでクラウドソーシングが広まることが、いかに素晴らしいことか」が述べられているので、②が正解。

32. ③

空所直後の like I once was という記述から考えると、③が正解。

33. ㊦

最終段落であることを踏まえ、本文中で繰り返し用いられている表現を含む㊦が正解。

B

イ ②

「古い」という語の使い分けに関する知識が問われている。obsolete「時代遅れの」stale「新鮮ではない」worn-out「使い古された」。

ロ ②

catastrophic「壊滅的な」に近いのは②の disastrous。Catastrophic を知らなくても、Good intentions, but catastrophic results. とあり、but の前に注目すれば good の逆の意味だと分かる。また、disastrous を知らなくても、disaster「災害」を知っていれば、その形容詞形だと推測できる。

ハ ②

dialogues「対話」に近いのは②discussions。argue、discuss、debate はどれも「議論」と訳されるが、argue「対立した議論」discuss「お互いに尊重し合った話し合い」debate「ある主題に対して賛否の説得力を競う議論」という違いがあり、arguments は不適。

ニ ①

inclusive「包括的」に近いのは①comprehensive。inclusive を知らなくても Crowdsourcing の利点を語る文脈と include「含む」から推測できる。また、comprehensive を知らなくても、comprehend「理解する、含む」から推測できる。

ホ ③

a small fraction of A という形なので「数量」を表していると推測できる。proportion「割合、部分」。

C.

へ ②

I 【へ】difficulties で「私は苦労した」という意味にしたい。encountered「遭遇した」が正解。

ト ④

等位接続詞 and の前の rely on out dated maps と同様の意味になるようにしたい。また、空所直後の like shut-down elevators もヒント。車椅子に乗る筆者にとって動かないエレベーターがどんなものか考えれば、④obstacles「障害」が正解。

チ ②

implement 「実行する」の知識で解ける。知らなくても、4行下に「implementation」という名詞形が出てくる。

リ ②

「クラウドソーシングのユーザーが、専門家と経験を共有して、【リ】解決策を思いつく」の空所に入りうる副詞は、②collectively 「協力して」。share という主節の動詞とも相性が良い。

D.

ヌ ⑨

end up ~ 「結局~する」。

ル ③

多義語 account for ~ 「~の割合を占める・を構成する・からなる・を説明する」。

ヲ ⑤

go out 【ヲ】 their way となっている。out より「their way から抜け出す」という意味になる選択肢が正解。

5

A. ④、⑦、~~13~~、~~16~~、~~19~~、~~21~~

- ① how marine pollution had evolved が不適。fulmar の体内に oil があるか調べていたとき、とある。
- ② in his 40s が不適。今彼は 64 歳で、40 年前の 1970s では 20 代だと考えられる。
- ③ plastic を fulmar の体内に見つけたのは、最初は偶然だったとあるので、後半部分が不適。
- ⑤ the seabirds' past evolutionary process が不適。本文と関係のない記述。
- ⑥ 彼は海鳥の体内のプラスチックを問題視したので、内容が逆。なお、この文の構造は、dismissed all the debris that ~ as insignificant の as insignificant を目的語の前に出した形になっている。
- ⑧ unaware が不適。内容が逆。
- ⑨ flumars が海洋環境の変化の原因だという話は本文に記述なし。
- ⑩ northern fulmars fly near the sea surface and eat fish という記述はあるが dive into the sea という記述はない
- ⑪ plastic pieces が細かくなってほとんど traceable でないという記述より不適。
- ⑫ diminished が不適。内容が逆。
- ⑬ dissolve が不適。本文に plastic は分解されないと述べられている。
- ⑭ 本文に The researchers don't know how many of the birds died because of plastic intake. とあるので不適。
- ⑰ 全体 2.8% の cod から plastic が見付き、これはあまり大きい値には思えないかもしれない、と本文中にあるので that 節の内容が不適。
- ⑱ The increase in the number of eggs laid by polar cod の記述は本文中にない。

20 該当するような記述は本文中にない

22 50micrometers in diameter より大きい plastic particle の記述は本文中にない。

B.

《方針》「要点」が問われているため、具体例を省いて簡潔にまとめる。

- ・プラスチックの海洋汚染が深刻化している。
- ・海洋生物がプラスチックを摂取している。
- ・この問題は今後も深刻になっていくだろう。

お問い合わせは☎0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>